

2007年度の総会が7月28日に東京農業大学で開催されました。
議案と審議結果は、次の通りです。

実践総合農学会 2007年度総会議事次第

開催日時：平成19年7月28日（土） 10:00～11:00

開催場所：東京農業大学本部4階会議室

会長挨拶

議長選出

<議事>

1. 2006年度活動報告

以下の2006年度の活動報告は、満場意億地で承認された。

1) 2006年度一般活動報告

(1) 会員数 (348人)

正会員 306人 賛助会員 5人 購読会員 17人
学生会員 20人

(2) 活動

●本学会は、平成19年1月26付けで「日本学会協議協力学術研究団体」に指定されました。

●2006年度 実践総合農学会 第1回地方大会（熊本）開催

日程 2006（平成18）年12月15日（金）～17日（日）

12月15日（金）エクスカーション 田辺農場・木之内農場視察

12月16日（土）基調講演（三和酒類会長 西 太一郎）

全体シンポジウム

ー日本の農業・食料を支えるトップランナーの挑戦ー

司会 真武 信一（沖縄県農業研究センター）

第1報告 女性起業家の挑戦（田辺 美代子（日進温室組合ハーブセンタースマイルmama所長）

第2報告 新規就農に挑戦（木之内 均（（有）木之内農園 代表））

第3報告 いち豆腐屋の挑戦（庄司 憲一（糊豆の力屋代表））

第4報告 博多あまおうの輸出に挑戦（青柳 善磨（JA全農ふくれん）

第5報告 地域農業を支える新技術に挑戦（山川 理（独）九州沖縄農業研究センター 所長）

パネルディスカッション

コーディネーター 三輪 睿太郎（東京農業大学）

コメンテーター 中原 秀人（福岡県農業総合試験場）

後藤 一寿（（独）九州沖縄農業研究センター）

12月17日（日） 個別報告，地域課題シンポジウム

第1会場 個別報告

第2会場 地域課題シンポジウム

食農を軸とした食育の実践・熊本発

コーディネーター 有菌 幸司（熊本県立大学）

< 報告者 >

1. 食育アイランド九州（中田 哲也（農林水産省九州農政局））
2. 農の生命力と農の素晴らしさを体験で学ぶ（宮田 研藏（食と農の体験塾））
3. みんなで楽しい！地域に根ざした学校からの食育（松本 珠美（上天草市立上小学校））
4. 楽しく食べよう！豊に暮らそう！（村上 千幸（社会福祉法人喜育園立山東保育園））
5. 農業高校における地域社会と連携した食育活動（田畑 淳一（熊本県立鹿本農業高等学校））
6. コープ熊本における食農を軸とした食育の実践（毎熊 知子（熊本県立大学ACCESS研究員・
コープ熊本食の安全委員会委員長））
7. 地域食育の実践における企業の役割（平 幸一（株式会社 丸美屋））

第3会場 地域課題シンポジウム

農業と食品加工の連携と共創を考える

コーディネーター 後藤 一寿（(独)九州沖縄農業研究センター）

< 報告者 >

1. 異業種連携による食料産業クラスター形成と共創の考え方
後藤 一寿（(独)九州沖縄農業研究センター）
2. 地場産農産物を活用した食品加工の展開と商品開発支援
堤 えみ（熊本県食品加工研究所）
3. リサイクルによる食品産業と農業の連携の可能性
相原 貴之（(独)九州沖縄農業研究センター）
4. 食料産業クラスター形成に向けた食品企業の取り組み
上村 和也（株式会社 丸美屋）

○熊本県内の農業高校生の活動実践パネル展示

●学会ホームページの開発

2) 2006年度各種委員会報告

(1) 総務委員会

●2006年度 地方大会の準備・開催

●実践総合農学会「ニューズレター」の発行

(2) 財務・会計委員会

予算・決算で別途報告

(3) 学術委員会

●学術委員会の開催について

平成18年4月以降、以下の日程で学術委員会を開催した。

第3回学術委員会（平成18年 7月10日）

第4回学術委員会（平成18年12月28日）

第5回学術委員会（平成19年 1月 9日）

第6回学術委員会（平成19年 6月 7日）

●学術論文の編集について

投稿論文を審査し、受理された総説論文1編、研究論文3編を第3号に掲載した。

●学術論文の審査状況について

現在、研究論文3編（審査準備中1、審査中1、審査終了1）、報告論文9編（審査中2、審査終了7）投稿があり、今後審査終了論文について委員会で審議し、受理された論文を第4号（8月刊行予定）に掲載する予定である。

●新たな論文ジャンルの新設について

実践総合農学会大会個別報告の内容を速やかに会員に情報提供するため、新たな論文ジャンルとして「報告論文」を新設することとした。また、投稿規定、執筆要領、審査要領等の関係文書の改訂を行うとともに、熊本大会の個別報告者に投稿依頼を送付した。新たな論文ジャンルの内容は以下の通り。

- ①名称：報告論文
- ②執筆要領：基本的に研究論文と同様であるが、掲載量が4ページ以上6ページ以内、要約と英文サマリーがない点異なる。
- ③審査基準：学会員にとって関心のある情報を提供するもので、学術的にも一定の新たな知見が得られており、論文としての体裁が整っているもの。
- ④審査方法：基本的に研究論文と同様とする。
- ⑤審査期間：2週間とする（研究論文は3週間）。
- ⑥再投稿：4ページの論文については、内容を充実させた上で研究論文に再投稿できものとする。
- ⑦掲載号：個別報告が開催後の最新号。審査が間に合わない論文は次号に掲載する。

●委員の交代について

新委員 辻 雅男 氏（東京農業大学国際食料情報学部） 平成18年4月1日より
（佐藤 洋平 委員の後任）

（4）編集委員会・技術開発委員会

●学会誌『食農と環境』第3号の編集と刊行

内容

<特集>

シンポジウム 「本当にだいじょうぶ日本の食料」

（司会 白石 正彦 東京農業大学）

第1報告 天地有情の農学を求めて（宇根 豊 農と自然の研究所代表理事）

第2報告 ブランド・ニッポンが目指すもの

（岩元 明久 独立行政法人 農業・生物系特定産業技術研究機構理事）

第3報告 埼玉県における地産地消活動

（宮澤 史明 埼玉県農林部流通販売推進室 副室長）

第4報告 都市農業の実践と展望－農業体験農園をとおして－

（白石 好孝 大泉 風のがっこう主宰，NPO法人「畑の教室」代表）

第5報告 農薬の適正使用・リスク管理システム－安全な食料生産をめざして

（南石 晃明 中央農業総合研究センター 生産支援システム開発チーム長）

第6報告 ほねぶとネットが拓く食育の世界（大村 直己 食育コーディネーター）

<総説論文>

陽 捷行：土壌が語る文化

<研究論文>

鈴江 恵子・進士 五十八：EUの農業・経済政策に学ぶ日本型グリーン・ツーリズムの展開方向

ワリーキヤクン ユッター・門間 敏幸：有機農産物の購買要因と価格受容特性の分析

後藤 一寿・エルゲラ 三浦 グスタボ：機能性食品市場の動向と消費者需要の特性

<トップリーダーインタビュー>

松田 藤四郎（東京農業大学 理事長）

<食農と環境の最前線レポート>

茨城白菜栽培組合

<リーディングカンパニー訪問>

磯自慢酒造株式会社

<農の達人紹介>

（有）山二園 後藤 義博

<実践総合農学のおもしろ研究紹介>

3) 2006 年度決算報告

**実践総合農学会
平成18年度決算報告**
(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

収入の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
会費収入	1,800,000	1,177,000	623,000	
正会員	1,560,000	1,089,000	471,000	3,000円×363
学生会員	90,000	34,000	56,000	2,000円×17
賛助会員	75,000	15,000	60,000	3,000円×5
購読会員	75,000	39,000	36,000	3,000円×13
会誌販売	1,800,000	312,016	1,487,984	
広告収入	200,000	0	200,000	
協賛金	500,000	0	500,000	
大会参加費収入	0	771,800	△ 771,800	参加費、資料代、懇親会費等
前年度繰越金	990,075	990,075	0	
収入の部合計	5,290,075	3,250,891	2,039,184	

支出の部 (単位:円)

科目	予算額	決算額	差異	備考
大会開催費	200,000	1,246,723	△ 1,046,723	講師交通費、要旨集印刷、懇親会等
会誌発行費	4,500,000	983,270	3,516,730	学会誌、ニュースレター
名簿作成費	0	0	0	
事務費	100,000	75,402	24,598	消耗品等
ルポライター委託料	0	0	0	
通信費	100,000	80,840	19,160	郵便、宅配便等
予備費	390,075	0	390,075	
次年度繰越金	0	864,656	△ 864,656	
支出の部合計	5,290,075	3,250,891	2,039,184	

会計監査報告

平成18年度実践総合農学会会計の監査をおこなった結果、上記のとおり相違ないことを認めます。

平成19年7月20日

監事

津本 英明 

監事

川崎 利文 

2. 2007 年度活動計画

2007 年度活動計画は、満場一致で承認された。

1) 2007 年度一般活動計画

(1) 会員数の拡大

- 正会員 ー学会掲載論文の多様化（研究論文、報告論文など）
 - 広報活動の活発化（ニュースレターの活用）
 - 学会ホームページの充実と更新
 - 地方での学会活動の展開による地方会員の確保
- 学生会員ー個別報告、報告論文による研究発表機会の充実
- 賛助会員ー無料広告の掲載など、会員としてのメリットを出して勧誘する
- 購読会員ー定期購読会員についても市販で購入するより多くのメリットを享受できるようにする

2) 2007 年度各種委員会計画

(1) 総務委員会

理事会の定例的な開催（常任理事会の設立を計画する）

(2) 財務・会計委員会

学会誌を年4回刊行する場合の予算計画を検討する

(3) 学術委員会

- ・総説論文の体系的な掘り起こし
- ・投稿論文の迅速な審査システムの構築
- ・投稿論文の掘り起こし
- ・報告論文の迅速な審査と掲載

(4) 編集委員会・技術開発委員会

●学会誌『食農と環境』第4号の編集と刊行

<トップライダーインタビュー>

西尾 敏彦（元 農林水産省農林水産技術会議事務局長）

<熊本大会 特集>

12月16日（土）基調講演（三和酒類会長 西 太一郎）

全体シンポジウム・パネルディスカッション

ー日本の農業・食料を支えるトップランナーの挑戦ー
地域課題シンポジウム

- ・食農を軸とした食育の実践・熊本発
- ・農業と食品加工の連携と共創を考える

<研究論文>

<報告論文>

●学会誌『食農と環境』第5号（地方大会特集号）の編集と刊行

3) 2007 年度予算計画

実践総合農学会 平成19年度予算案

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

収入の部

(単位:円)

科目	19年度予算額	18年度予算額	差異	備考
会費収入	1,740,000	1,800,000	△ 60,000	
正会員	1,500,000	1,560,000	△ 60,000	3,000円×500
学生会員	90,000	90,000	0	2,000円×45
賛助会員	75,000	75,000	0	3,000円×25
購読会員	75,000	75,000	0	3,000円×25
会誌販売	500,000	1,800,000	△ 1,300,000	
広告収入	200,000	200,000	0	
協賛金	2,000,000	500,000	1,500,000	
大会参加費収入	500,000	0	500,000	参加費、資料代等
前年度繰越金	864,656	990,075	△ 125,419	
収入の部合計	5,304,656	5,290,075	14,581	

支出の部

(単位:円)

科目	19年度予算額	18年度予算額	差異	備考
会議費	100,000	0	100,000	理事会、各委員会等
総会・シンポジウム開催費	200,000	0	200,000	
大会開催費	800,000	200,000	600,000	地方大会
会誌発行費	3,500,000	4,500,000	△ 1,000,000	学会誌、ニュースレター
名簿作成費	50,000	0	50,000	
事務費	100,000	100,000	0	消耗品等
通信費	150,000	100,000	50,000	郵便、宅配便等
予備費	254,656	390,075	△ 135,419	
次年度繰越金	150,000	0	150,000	
支出の部合計	5,304,656	5,290,075	14,581	

3. 審議事項

1) 新理事・新役員の承認

2007 年度の新理事は、満場一致で承認された。

2) 常任理事会の設置について

2007年度からは、常任理事会を設置して機動的に学会活動を行うことが承認された。

3) 本年度の地方大会の開催について（静岡県富士宮市）

2007年年度の地方大会は、静岡県富士宮市で「地域バイオマス資源の活用」をテーマで行うことが承認された。

4) 編集規定の変更について

編集規定の変更が承認された。

5) 学会誌の刊行回数について

学会誌の刊行回数については、2007年度に検討することが承認された。

6) 学会費の値上げについて

学会費の値上げについては、2007年度に検討することが承認された。